



# 青カガシ

鳥山北小学校の教育目標

- ◎すすんで学びよく考える子ども
  - 豊かな心をもち仲良く助け合う子ども
  - すすんで健康な体をつくる子ども
- 重点目標 みとめあい まなびあい そだてあい

<目指す児童像> 「かしこい子」「らしさを大事にする子」「きりつ正しい子」「たくましい子」

令和8年1月30日（金）  
創立73周年 No. 10

鳥山学舎 世田谷区立鳥山北小学校 校長 河野 芳浩  
〒157-0061 世田谷区北鳥山6-3-1 TEL3300-5764 FAX3300-5785  
学校HP <http://school.setagaya.ed.jp/kata/>



## 教育目標「すすんで健康な体をつくる子ども」

副校长 佐々木 恒

3学期が始まり、あっという間に1月が終わり、令和7年度も残り2か月となりました。重点目標である「みとめあい まなびあい そだてあい」を教職員の合言葉として教育活動に取り組んできました。1月22日、23日、26日の学校公開では、4月から成長、パワーアップした児童の姿をご覧いただけたと思います。

さて、イタリアのミラノで冬季オリンピックが開幕します。テレビ等でもオリンピックに向けて少しづつ盛り上がりがけてきているように感じます。オリンピックのはじまりは、今からおよそ2800年前の古代ギリシャにさかのぼります。当時、人々はオリンピアという場所に集まり、神様への感謝の気持ちをこめて競技を行っていました。走ったり、跳んだり、投げたりする競技を通して、体をきたえ、心もみがこうとしていたのです。古代オリンピックで特に大切にされていた考え方の一つに、「聖なる休戦」があります。これは、オリンピックが開かれている間は、たとえ国どうしが争っていても、戦いをやめるという約束です。選手や見に来る人が安心して集まれるようにするためのもので、平和を大切にする心がこめられていました。この考え方は、今のオリンピックにも受けつがれています。

長い時を経て、オリンピックは一度なくなってしまいますが、約120年前、フランスの教育者であったクーベルタン男爵によって、今のオリンピックとしてよみがえりました。クーベルタン男爵は、スポーツには、体を強くするだけでなく、人の心を育て、国や文化のちがいをこえて人と人をつなぐ力があると考えました。オリンピックの精神で大切にされているのは、「挑戦すること」「努力を続けること」「ルールを守ること」「相手を大切にすること」です。うまくいかなかったときでも、あきらめずに努力を続ける姿や、相手のよさを認める気持ちは、とてもすばらしいものです。

私たちの学校生活でも、このオリンピックの精神は生かすことができます。勉強や運動、行事の中で、自分なりの目標をもち、友達と助け合いながら取り組むことは、心と体を大きく成長させてくれます。これからも一人一人が自分の力をのばしていってほしいと願っています。

また、寒さが厳しくなるこの時期、子どもたちの体力向上を目的として、本校では「なわとび」に継続して取り組むなわとび旬間を2月に設定しています。なわとびは、特別な道具や広い場所を必要とせず、だれでも気軽に始められる運動でありながら、全身をバランスよく使うことができる効果的な運動です。なわとびを続けることで、脚力や持久力、リズム感、巧みな体の使い方が自然と身に付いていきます。また、「前より多く跳べた」「新しい技に挑戦できた」といった小さな達成感を積み重ねやすく、運動への自信や意欲を高めることにもつながります。友達と励まし合いながら取り組む中で、体力だけでなく、粘り強く努力する力や、互いを認め合う心も育まれています。

体力向上は、一朝一夕で達成できるものではありません。日々の積み重ねが大切です。今後も、なわとび旬間や1月に実施したマラソン旬間、日常の体育の時間を通して、子どもたちが体を動かす楽しさを感じながら、健やかな心と体を育んでいけるよう、取り組んでまいります。